

はじめに

この年報は1990年度に当研究所が実施した発掘調査をはじめとするさまざまな研究活動と宮跡整備、資料展示、広報普及などの諸事業のうち主要なものの概要を簡単にとりまとめると共に事務的な報告事項を付して、当該年度における研究所のあゆみを紹介させていただくものである。

飛鳥地域の発掘では山田寺（第8次）と坂田寺（第6次）が小範囲ながら期待以上の成果を取め、前者では宝蔵、後者では仏堂と回廊を建築遺材や内部遺品まで伴って検出した。石神遺跡では主要建物区画の北に特異な平面の建築が発見され、複雑さを一層加えた感がある。

藤原宮、平城宮の発掘は官衙地区が主要な対象となり、平城宮では兵部省の全貌と相対する式部省間の広場の儀式的性格が明らかにされた。そのほか薬師寺講堂・北面回廊、西隆寺境内など発掘調査は両調査部あわせて53次、27800㎡に及んだ。専門分野別の研究成果は各項目ごとに御覧願うとして、1991年2月から5月にかけて奈良、福山、横浜の3都市で長屋王展を開催し、木簡から復原される古代貴族の生活をわかり易く展示して好評を得たのも、当研究所の大切な社会的責務の一端であることを報告したい。

あいかわらず予算・定員など研究環境に対する制約はきびしい一方、文化財保護にかかわる国際的な支援協力の要請が格段に増加するなど、当研究所に荷せられる責務は一層強まっていることを痛感する昨今である。今後とも多くの方々に暖い御指導、御後援を賜ることをお願い致したい。

1992年2月

奈良国立文化財研究所長

鈴木嘉吉